大磯建物語

大磯駅前洋館

（旧木下家別邸）

大磯駅前洋館

–旧木下家別邸–

国登録有形文化財（建造物）
平成24年2月登録

▶竣工　大正元年（1912年）
▶建物　木造３階・一部地下１階
　　スレート葺・南京下見板張
▶延べ床面積　約287平方メートル
▶所在地　中郡大磯町大磯1007
▶所有者　大磯町

大正モダン

現存する国内最古の2×4住宅

「湘南発祥の地」大磯のJR大磯駅から海水浴場へむかう道に「大磯駅前洋館」（旧木下家別邸）の優美な佇まいがみえてきます。敷地の形状が三角形であることから、住民からは「三角屋敷」と呼ばれ親しまれてきました。

この洋館は、最近までの調査で大正元年に貿易商の木下建平氏がアメリカ帰りの日本人建築家・小笹三郎氏に設計を依頼したと推察されています。当時流行していたアメリカ発祥の工法であるツーバイフォー工法を採用した住宅であり、国内に現存する同工法の住宅の中では最も古いものです。
また、改修工事の際に確認された使用木材については、骨組の赤松に残る丸ノコの痕跡や木取りの状態からも国産材であることがわかっています。

建物の特徴として、屋根は切妻造スレート葺（ぶき）で左右の屋根上に大きなドーマー窓を開けたシンメトリックな形状と、外壁は南京下見板張、各部屋にはデザイン性や採光性に優れたベイウィンドウ（出窓）を設置し、正面中央の玄関ポーチの上に2階バルコニーを乗せたデザインです。

このような歴史上・景観上重要な資産を後世に継承していくため、競売にかけられようとしていた土地を平成22年6月に大磯町が購入しました。（建物は寄付）
平成24年2月に大磯町として第１号の「国登録有形文化財（建造物）」に登録されました。
また同年9月には景観法に基づく「景観重要建造物」にも指定されています。

－ 用語の説明 －

＊ツーバイフォー工法
柱や梁でなく、面で建物を支える箱型構造
（ツーバイフォー工法は日本独自の呼称で正式には木造枠組壁工法）

＊切妻造（きりづまづくり）
頂部から両側に傾斜を持つ三角屋根の形式

＊ドーマー窓
屋根から突き出す小さな屋根を有する採光用の窓

＊ベイウインドウ
台形に張り出した出窓

＊丸ノコ
明治36年頃から使用され始めた国産製材機の丸鋸（痕跡の形状で時代等が推定可能）

＊木取り（きどり）
原木から板目を考慮した板材の取り方

1階

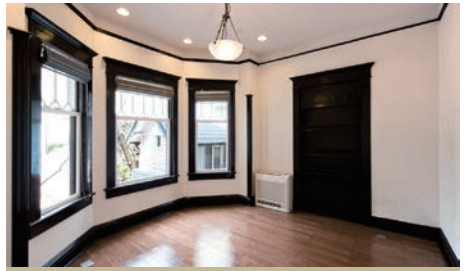
玄関を入り廊下とその左右に部屋がある設計になっています。突き当たりには庭へ出るドアがあり、現在は新館への通路となっています。

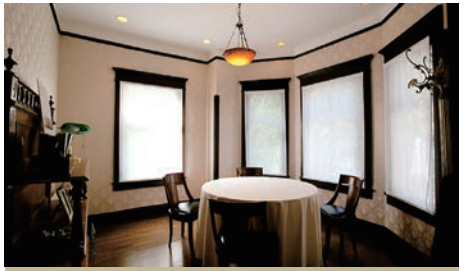
【本館】
- 洋室（ベイウインドウ付）３室
- パントリー（収納庫）
- キッチン（厨房）

【新館】
- ホール（レストラン）

パントリー

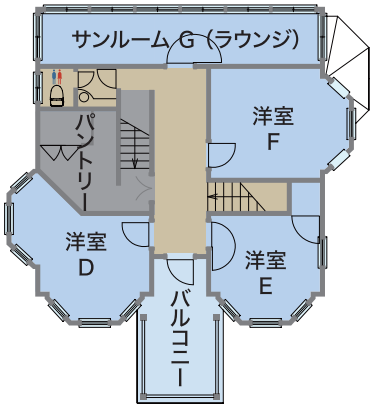
洋室 C


洋室 A


洋室 B

2階

２階は、海側にサンルームを配した間取りが特徴です。全面がガラス窓で解放され、ここからは相模湾が一望できるくつろぎの空間となっています。



【本館】
- 洋室（ベイウインドウ付）３室
- サンルーム（ラウンジ）
- パントリー（収納庫）

サンルーム G　（ラウンジ）

洋室 F　＊ステンドグラス

洋室 D

洋室 E

3階

洋室 H　＊ステンドグラス

屋根裏部屋で現在は収納庫となっています。十字の形をでその四方に窓があり日差しを多く取り込めるデザインになっています。

新館

ホール　（レストラン）

増築された新館ホールは、ほぼ全面がガラス窓の開放感のある空間で庭の緑と一体となり落ち着いた雰囲気で時を過ごすことができます。現在はレストランのダイニングスペースとして活用されています。

■ 大正ロマンの香り漂う装飾

２階サンルーム（ラウンジ）の窓上部にデザインされた亀甲模様のステンドグラス

大磯の風景と波と泡がモチーフでサンルームの光を採りこむステンドグラス（洋室 F）

大正時代のロマンティックな光のデザイン照明
天井の草花柄のすき間は、換気口の役目

アカンサスの花の模様が施された竣工当時のドアノブ

沿革

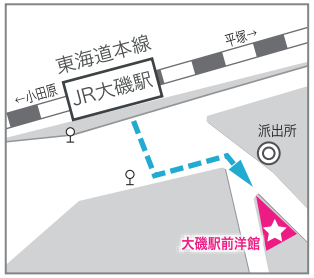
大正元年（1912）		竣工 貿易商・木下建平氏がアメリカ帰りの建築家・小笹三郎氏に依頼したと推測される
大正 7年（1918）		木下家親戚の山口勝蔵氏が所有
大正12年（1923）		関東大震災にも耐え、倒壊を免れる
平成元年（1989）		フランス料理店やイタリア料理店として活用
平成22年（2010）		大磯町が土地を購入取得（建物は寄付）
平成24年（2012）	2月	国登録有形文化財（建造物）に登録 （大磯町では最初の登録）
	4月	大磯町では、保全活用を目的とした民間企業等による利活用の企画公募を実施
	7月	審査を経て活用事業者を決定
	9月	景観重要建造物に指定
平成25年（2013）	6月	レストランとして活用事業が開始

制作にあたって

大磯町は明治１８年に日本初の海水浴場ができ、伊藤博文をはじめ政治家や財界人がこぞって別荘を建設し「湘南の奥座敷」と呼ばれ発展してきました。戦後、このような別荘は次々売却され、その多くが姿を消すなか、この洋館も存続の危機に直面していました。
洋館の保存は、歴史的文化財を守るという町民や行政の強い意志により実現できたものと思います。大磯にはまだ多くの保存すべき歴史的建造物がありますが、それらの保全を実現していきたいとの思いを込めて今回このリーフレットを制作しました。皆さまも大磯でこの物語の続きを一緒に紡いで参りませんか。
是非、お待ちしております･･･

― 資料･写真等の提供協力 ―
・大磯町
・大磯迎賓館

― アクセス ―
東海道本線「JR大磯駅」下車
海水浴場方面へ（徒歩1分）
※車でのご来場はご遠慮ください



大磯建物語「大磯駅前洋館」（旧木下家別邸）
平成28年3月 発行

編集･発行　大磯まちづくり会議
〒259-0102 神奈川県中郡大磯町生沢969-3
（株）アスデザインアソシエイツ内
電話番号　0463（73）2002

大磯建物語

大磯駅前洋館

（旧木下家別邸）

発行

大磯まちづくり会議